

RPPC メールマガジン 第 810 号

リサイクルポート推進協議会（令和 2 年 2 月 5 日）

■事務局からのお知らせ

第 2 回 広報部会

日時：2 月 19 日（水）15:00～

場所：一般社団法人みなと総合研究財団 3 階 会議室

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1.リサイクルポート推進協議会、国際資源循環部会を開催

リサイクルポート推進協議会は 1 月 27 日、令和元年度第 1 回国際資源循環部会（部会長・田中訓朗・エムエム建材取締役執行役員）を開催した。同部会では鉄スクラップの効率的な海外輸出方策などについて検討してきている。これまで中心だった韓国や中国が競合関係になりつつあり、当日は遠隔諸国への経済的な輸送についての課題や方策などについて議論した。

国際資源循環部会では冒頭、田中部会長が、「鉄スクラップ輸出については、仕向け地が遠隔になりつつある。海外動向や遠隔輸送に伴う大型船での対応、スクラップの集荷方法、またどこの港湾がそうした対応が可能かなどの課題について、現状把握を行いつつ競争力強化に向けて議論を深めて参りたい」と挨拶した。

当日の議論では中国や韓国の動向について分析するとともに、大型輸送船による運搬に向けた集荷方法や積み出し基地としての港湾背後地、岸壁など、総合的な視点で今後も議論を進めていくことなどを確認した。

---

2.中部地整、「伊勢湾の港湾ビジョン」を策定。2030年の港の姿示す

中部地方整備局は、2030年の伊勢湾における港湾の姿を示す「伊勢湾の港湾ビジョン」を策定した。国土交通省港湾局がまとめた港湾の中長期政策「PORT 2030」を踏まえ、伊勢湾域における港湾政策の今後の方向を提示したものとなっている。

伊勢湾の港湾ビジョン策定にあたっては、港湾管理者や港湾利用団体、経済界、有識者等からなるビジョン策定委員会（委員長：水谷法美名古屋大学大学院教授）を設置して検討してきたもので、基本理念として、我が国の国際競争力を牽引するグローバルハブの形成、中部圏の賑わい、安全安心を確保する港湾群を掲げている。

伊勢湾が目指すべき方向性として8項目を打ち出し、その目標を具体化する対応方策、並びに先導プロジェクトなどを示している。

目指すべき方向では、中部のものづくり産業を支える▽国際海上輸送網の構築（輸出入コンテナ貨物のインバランスの改善、航路網の充実と船舶の大型化への対応など）、▽新たな価値を創造するシームレスな国内物流体系の構築（内航フェリー・ROROターミナルの利便性向上）、等。

---

### 3.秋田県、地港審で能代港の改訂案、秋田港の一部変更を了承。洋上風力対応。

秋田県は1月23日、第38回地方港湾審議会を開催し、能代港港湾計画の改訂案、並びに秋田港の一部変更計画案について審議し、いずれも原案通り了承した。

洋上風力発電に対応した内容になり、能代港では大森地区に洋上風力発電部材を輸送する船舶の係留施設、荷さばき、一時保管、組立ヤードを確保する。このうち係留施設は、既定計画を変更し水深12m岸壁延長230mを位置付けている。ふ頭用地は約22haを確保する。

また秋田港の一部変更計画では、飯島地区において洋上風力発電の取扱いに対応するため、ふ頭用地を拡大する。

【港湾空港タイムス 02月03日号から編集】



発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：丸岡 裕人 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

安藤 彰 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: [rppc\\_jimukyoku@wave.or.jp](mailto:rppc_jimukyoku@wave.or.jp)



■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。

開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください。